

I 各種健診・ドック・がん検診等の実施状況（出雲圏域中心）

1. 各種別受診者数（過去7年間の実績）

（単位：人）

区分	年度	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
1. 生活習慣病予防健診 （協会けんぽ）		2,990	3,079	3,095	3,567	3,994	4,418	4,511
2. 事業所 健診	基本健診 （Aコース）	1,331	1,445	1,451	2,140	2,184	2,193	1,392
	基本健診 （Bコース）							397
	一般健診	74	101	99	193	215	218	217
	勤労者健診	321	339	241	338	381	350	375
3. 特定健康診査				69	142	116	161	
4. 特定保健指導				34	93	125	114	
5. 人間ドック	1,201	1,319	1,315	1,605	1,926	1,970	2,173	
6. 脳ドック	538	616	409	142	174	149	121	
7. 全身ドック		26	32	49	32	47	54	
8. アンチエイジング脳ドック			57	62	48	37	31	
9. 骨と血管ドック	197	162	24	119	25	66	55	
10. 乳がん検診 *1)		397	600	846	887	1,021	728	
11. 労災二次健診		14	60	61	81	109	91	
12. MRI検査	3,316	3,337	3,274	3,222	2,920	3,037	2,839	
合 計		9,968	10,835	10,657	12,447	13,102	13,856	13,259

*1)市町村からの委託分だけの件数である。

①過去7年間の各種健診の推移については、

- 生活習慣病予防健診（協会けんぽ）、事業所健診、人間ドック、全身ドック、乳がん検診、労災二次健診については、地域での健康意識や予防医学的な面からの医療ニーズの高まりなどを反映して、受診者数は毎年増加傾向にある。
- 2008年度から新たに国の制度として開始された特定健康診査・特定保健指導については、受診者数が年々増加傾向にあり、国の新たな制度が地域社会に浸透しつつある状況が窺える。
- 脳ドック・アンチエイジング脳ドック・骨と血管ドックについては、近年受診者数は減少傾向にあるが、当法人としての「新たな健診メニューの開発」という立場から島根大学と共同した医学研究事業として実施しているという側面もあり、当法人の公益性という点を視野に入れながら、今後の動向については注視していくこととしている。

②MRI検査については、過去7年間の推移をみる限り、受診者数はやや減少傾向にある。県が定める県内の医療圏域単位でみた場合に、近年、出雲圏域内における各医療機関において高度な医療機器の整備が着実に進みつつある状況などを反映し、受診者の受診先医療機関が分散してきていることも一因ではないかと考えられる。